



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ2011推進ニュース

—介護ウェーブの“Big Wave”をおこそう！—

新方針「介護ウェーブ2011後半戦の方針」を具体化し介護改善要求の声を国会に届けよう！

「介護の日」宣伝・署名行動に県内3カ所で65名が参加（奈良）
私も将来お世話になるかもしれない、より良い制度にして欲しい



11月11日「介護の日」に、西大寺駅前で、「介護保険の改善を求める」署名・宣伝活動を、平和会と秋篠茜会が合同で行いました。朝からの雨もすっかりあがり、総勢28名での活気のある宣伝活動となりました。秋篠茜会からは13名、平和会からは15名の参加でした。秋の夕方でもあり少し薄暗いなかでしたが、「介護保険の制度がかわることは、報道もされていないし全然知らなかった、もっと知らせるべき」、「今の制度は本当に必要なように使えない」、「今は介護を利用していないけどおばあちゃんもいるし、私も将来お世話になるかもしれない、より良い制度にして欲しい」などの意見を聞くことができました。また、金曜日の夕方で若い人が多かったのですが、みんなが一生懸命に活動している姿に感じてもらえるものがあ

ったのか、「あまりよくはわからないけど署名します。がんばってください」という若いカップルや、「介護も大事だけど、絶対にTPPには反対しないといけない」と力説される方もいらっしゃいました。みなさん自分のこととして考えておられる意見が多かったように思います。宣伝と対話のなかでいろいろ人の意見を聞けることが実感できました。署名数は、合計で149筆でした。

近畿奈良駅（岡谷会）行動には、県連事務局2名ふくむ17名の職員が参加し、「介護保険改善」を訴え、例年になく多くの職場から参加しました。通行人から「介護職員の待遇改善の署名か？」と問われ対話したり、「大変ですよねえ」と進んで署名に応じていただいたりと、短時間でしたが101筆の署名が集まりました。引き続き、「利用者負担の軽減」「介護職員の処遇改善」「要支援のサービス切り下げ反対」など、要求を訴えて職場・地域で署名を広げましょう！



近鉄高田駅（健生会）行動には、20名の職員が参加し、介護改善の宣伝署名を行い、人通りが少ないとですが、66筆の署名が集まりました。現場の職員が交代で署名の内容をふまえ、「軽度者の介護保険はずしをやめよ」、「介護報酬の引き上げで職員の処遇改善を進めてほしい」など、寒い中で訴えました。引き続き介護報酬改定、地域の介護保険計画づくりに向けて、運動を進めていきましょう。

また、11月12日には、中央社保協の呼びかけに応え、奈良県社保協と奈良民医連が共同し、全国一斉の「介護なんでも110番」に初めて取り組みました。相談員は県連高齢者福祉委員会にご協力いただき、県連各法人で1時間～2時間ずつ分担していただきました。どれくらい相談があるか見当もつきませんでしたが、結果的には「要介護状態にない高齢者が利用できるサービスについて」、「入院中の夫の退院後の行先について」の2件の相談が寄せられ、丁寧なアドバイスで満足していただきました。相談件数が少なく、少し空振りの感じでしたが、これをスタートに来年はもっと相談が寄せられるよう、宣伝を行き渡らせる工夫したいと思います。（奈良民医連週報 No. 63 2011年11月16日より）

血圧が高いけど病院に行っていない。介護保険がどれくらい上がるか心配 大田病院介護保険室のメンバー総出で「改正」介護保険の改善を求める宣伝・署名行動(東京)



11月18日の夕方に、梅屋敷商店街で、大田病院介護保険室のメンバー総出で、「改正」介護保険の改善を求める宣伝と署名行動をとりくみました。今回の「改正」では、予防サービスの切り下げを可能にする制度が新たに導入されるなど、利用者・家族から強い不安の声が出ています。また、介護職員の処遇改善は「待ったなし」の課題となっています。緊迫した情勢になっていることを受けて、今回の宣伝・署名行動が計画されました。自ら用意した宣伝用スポットを活用して交代でハンドマイクも握りました。1時間あまりの宣伝行動でしたが58筆の署名が集まりました。

自転車に乗っているところを、わざわざ止めて署名をしてくれた若い方や、『血圧が高いけど病院に行ってない。介護保険がどれくらい上がるか心配です』と、職員に血圧を測つてもらいました。参加した職員は、「安心・安全の介護を真に保障する制度として実施されるように訴えたい」と意気込みを語っていました。介護保険室は、事業所・職場へお願い文書を付けた署名用紙を配布し、介護保険室の職員が手分けして職場訪問も行っています。

(城南3法人 社保・共同組織ニュースNo. 50 2011年11月21日より)



「改正」介護保険の改善を求める行動が全県で！ 現場の声を届けよう 県内で職員奮闘！ 介護ウェーブ後半戦のたたかいも大きな山場！(神奈川)



11月12日、13日に、中央社保協主催で「介護なんでも110番」が行われ、神奈川民医連の職員も参加しました。朝10時開始直後に4台の電話が鳴り、その後「NHK」の昼のニュースで紹介されると8台の電話が鳴りっぱなし。1件に30分以上かかる内容もありました。「認知症で退院してくる母の介護をどうしたらよいか。不安だ。施設に入るにもお金が心配。自分一人でどうすればよいか…。近所の方にもこんなことは話せない」と、担当ケアマネジャーが決まっていたがどこに相談してよいかわからず、新聞で知り、「介護なんでも110番」に電話をしたとのことでした。他の介護従事者からの相談も含め、参加した5時間余りで60件の相談となりました。「分かりにくい介護保険制度であり、介護が必要な方達が安心して利用できる制度となっていない」ことが反映されている相談件数だと思われます。

11月16日に、神奈川民医連横浜協議会は「横浜市第5期高齢者保険福祉計画・介護保険事業計画」(素案)に対する意見・要望14項目提出し、横浜市の考えを正しました。民医連からは15名が参加し、横浜市から6名の担当官が対応しました。「介護予防・日常生活支援総合事業」は、「来年4月の実施はできない」、「24時間定期巡回随時対応訪問介護看護」のモデル事業は、「神奈川区で1事業所2件を実施し、今後モデル世帯を拡充したい」、「圏域は中学校区では狭く行政区単位と考えている」、「指定公募制が提案されているが、質を確保したい」などの説明を受けました。

「輝け高齢期かながわのつどい in ヨコスカ」で、関聰子氏(神奈川みなみ医療生協)が、医療・介護現場の取り組みを報告しました。医療では、医療費抑制を目的に入院日数の削減や、初診時の自費徴収、介護では「改正」介護保険制度の問題点について事例を交えて報告し、参加者から大きな拍手が寄せられました。(介護ウェーブ推進ニュース・神奈川 No.43 2011年11月30日より)

お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp